

東鴻臚館趾ひがしこうろくわんのあと〔帝王編年記に云、南北二町、起リ七条坊門ニ迄ニ南七条ニ、東西二町、起リ東壬生ニ迄ニ西朱雀ニ。〕（按ずるに

東寺建立の後なり。〕

続日本後紀云 承和六年八月辛酉、以テ東鴻臚院地ニ一町ヲ宛テ典藥寮ニ為ス御藥園ト。

大槐秘抄云 七条朱雀東西に鴻臚館と申所候、異国の人まいる時るる処にてなん候ひける。村上の御日記に、蜜瓜の

たねを鴻臚館の預にたまひて、鴻臚にうへさせられたりところ候めれ云々。いまは人領とまかりなりて候めり。

帝王編年記云 延喜八年渤海客来ノ朝ス於ニ鴻臚館ニ。

和漢朗詠 前途程遠馳シ思フ於ニ鴈山ノ之暮雲ト。

後 江 相 公

後会期遙也露ホス纓ヲ於ニ鴻臚ノ之曉ノ涙ニ。